



巻頭言

「見せました！ 杜の都の ONE TEAM！」

日本学校教育相談学会宮城県支部

理事長 渡辺 美 貴

会報「きずな」第15号の発刊おめでとうございます。発刊に当たり、労をお取りくださった広報委員会の皆様はじめ、快く寄稿してくださった会員の皆様に心から感謝を申し上げます。広報委員会のメンバーとして「きずな」第1号の発刊に携わる機会をいただいた者として、当時を懐かしく思い出しながらこの原稿を書いています。

まず、「信頼と心の響きあいを大切にした学校教育相談～東日本大震災を越えて私たちがめざすもの～」というテーマを掲げ、昨年8月に開催された、日本教育相談学会第31回研究大会（宮城大会）が大成の裡に終わったことを会員の皆様と共に喜びあいたいと思います。

平成23年8月に開催されるはずだった第23回宮城大会。東日本大震災により無念の中止に至ってから、8年の歳月を経て、全国の会員の皆様の温かい励ましに支えていただき開催することができました。川島克名誉実行委員長、山下克郎実行委員長はじめ、宮城支部全会員の熱い思いが結集した大会でした。杜の都仙台にふさわしい、緑色の「絆」ポロシャツ姿の我々は、訪れた皆様の目に、まさに東日本大震災を越えた「ONE TEAM」と映ったに違いありません。参加された全国の皆様から、宮城の先生方の笑顔と温かいおもてなしに感動したというお言葉や感想をたくさんいただきました。この紙上をお借りして、会員の皆様に心より感謝申し上げます。そしてこの大会をとおして、私たちが紡いだ「絆」という名のネットワークが全国に広がることを切に願っております。

さて、平成15年の支部設立以来、歴代理事長先生のご指導の下、支部やブロックごとに多領域にわたる研修会や事例研修等の実践研修・活動を進めてまいりました。「創世記」「発展期」を経て、私たちは今まさに「充実期」をひた走っております。

先の見通せない予測不能な社会を生き抜かなければならない目の前の子どもたちのために私たちは

教育相談の実践者としてどのような資質を伸ばさなければならないか、どのような力をつけていかねばならないかを皆さんと共に考え、これからも様々な実践研究を企画運営していきたいと考えます。そして何より「ここに来れば仲間がいる。」「共に考えてくれる仲間がいる」「自分は一人じゃない」と会員全員が思えるような「きずな」を紡ぎ続ける支部であることを心から祈念して、巻頭言といたします。

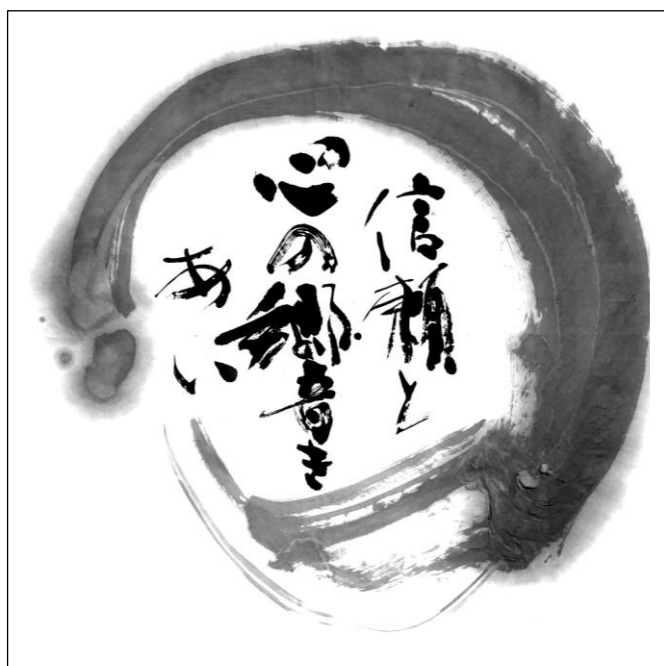


第31回総会・研究大会を終えて

日本学校教育相談学会 宮城大会実行委員長 山下 克郎

会員の皆様、昨年開催された全国大会の大会運営に、宮城県支部の結束力を示し、一丸となり取り組んでいただきまして有難うございました。皆様一人一人が自覚と責任を持ち各分担された仕事をこなし、担当責任者間の緊密な連携プレイが、大会を成功に導いたものだと感じています。会員の皆様には御礼が遅くなったことをお詫び申し上げます。

役員の皆様は、会議で了承のことと思いますが、今総会・研究大会の参加人数は300名を超えました。東京大会以外の地方大会としては稀にみる大勢の参加者でした。お陰様で当初心配していた運営に関する予算不足も解決することができました。また、今大会に参加した皆様からの多くの評価を得ました。アンケートから次のようなコメントが寄せられました。(一部抜粋)川島隆太先生のお話は心に残った記念講演であった。もう一度聴いて勉強したい等。大会運営については、本会のテーマの筆文字が上手で「信頼と心の響きあい」の書に宮城県支部の皆様の温かさを感じた。74名の会員大半がスタッフとして活動していた。宮城県支部のチームワーク(運営)と親切さ(受付や各講座案内)に、感心させられた。宮城県支部の結束は素晴らしい等。会場について、仙台駅やホテルから会場が近く、アクセスも良かった。会場もきれいで広く、機材等も充実して研修が受けやすかった等。



会員懇親会については、料理もお酒も美味しかった。アトラクションや地酒は、東北にきた感がして大変良かった。係のサービスと心配りが感じられ、快適で満足した懇親会だった。アトラクションは宮城の郷土芸能を肌で感じ取ることができた。また子スズメさんたち可愛らしく素敵だった。

反省点として、10日の企画シンポジウムの時間変更について、アナウンスや掲示で事前に知らせて欲しかった。アンケートと参加証の引き換えが不明確であった。マイクの使えない教室で発表者の声が小さく発表の内容が聞き取れなかった。懇親会については、料理が足りなく会場も狭かった。懇親会会場が分かりにくく、

かなり迷って会場にたどり着いた等。また、プロジェクタートラブルや画像が小さい等はあったが、それを上回る人的対応が素晴らしいと感じた。

大会を振り返り、会場の構造上やむを得ないところでトラブルや参加者の不満もあり、係りの方にはご負担をお掛けしましたが、会員の皆様の献身的な働きにより殆ど解決し、概ね好評を得て終了することができ大成功の大会であったと思います。有難うございました。

今後は、大会で得た成果を私たち会員で共有すると共に、職場の仲間とも成果を分かち合い学会の取り組みや活動を広めて頂きたいと切に願っています。大会の準備運営に中心となり関わった事務局、大会役員、運営委



員、会員の皆様に感謝し大会を終えてのあいさつにさせていただきます。

全国大会事務局を担当して

宮城大会実行委員会事務局長 中里 和裕

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、当時の支部理事長、川島 克先生が断腸の思いで当年8月に予定されていた第23回総会・研究大会宮城大会の中止を決定されてから8年…。震災からの復旧・復興という長い道程を経て、ようやく昨年8月に改めて第31回総会・研究大会宮城大会を開催することができました。

宮城県支部としては初めてとなる全国大会開催に当たり、支部理事会内に企画・運営委員会を設置し、大河原、仙台、大崎、石巻の4つのブロックにそれぞれ庶務部、会場部、総務部、広報部の4つの担当を割り当てました。また支部研修委員会には研修部として初日のワークショップ及び実践・研究発表の運営を担当していただくこととしました。平成30年度の支部総会で実行委員会組織が承認され、実行委員会が正式に立ち上がってからは、各部毎に大会前日まで精力的に準備を進めていただきました。



おかげ様をもちまして、3日間の会期中は総勢63名の皆様のお力添えを得て、全国から320名と、例年の地方大会の1.5倍の参加をいただき、盛会のうちに大会を終えることができました。大会に参加をいただいた皆様のアンケートでは、学生スタッフの丁寧な案内や受付担当の笑顔での出迎え、会場・運営担当の細やかな対応など、「緑のポロシャツ」を着た実行委員の心温まる対応に感謝する内容の感想が数多く寄せられていました。

今、大会を終えて、事務局として何よりもうれしく思うのは、大会の開催を通して各ブロック、そして支部全体の絆が深まったことです。今後はこの絆を更に県内隅々に広げ、いじめ・不登校など、課題が山積する宮城県の教育に「ONE TEAM」となって取り組んでいければと願っています。最後に、大会へのご協力、本当にありがとうございました。

「宮城大会研修部を担当して」

研修担当 北條 久也

第31回総会・研究大会（宮城大会）を盛会に終えることができ、ほっとしております。今大会は、参加者もこれまでになく多く、ワークショップ等での会員同士のディスカッションは活発で、子供たちを思う熱い思いを感じました。これを支えたのは、研修委員会の皆様です。ほとんど事前の打ち合わせができない状態でしたので、メール等で連絡を取り、該当日に参加してくださいました。しかし、どなたも、自分の役割分担について主体的に確認してくださり、意欲的に運営にかかわってくださいました。各自の事情により、3日、2日、1日、半日と参加の仕方は違いましたが、それぞれが自覚をもって参加してくださったことが、大会の成功につながったと確信しております。教育相談の根幹には、児童生徒一人一人の人権を尊重し、その成長に寄与する精神が在ります。正に、その精神をこの大会で如何なく発揮していただいたのだと思います。そして、そのような会員の方が多く宮城支部に居ることを担当としてとても嬉しく、誇らしく思いました。また、今回は、各部で役割分担を行いましたが抄録作成がうまく進まなかったもので、総務部の代わりに研修部で作成しました。

抄録は原稿依頼から編集までを担当するので、執筆者とのやり取りが煩雑であり完成まではとても手間のかかる作業です。もう少し、事前に仕事内容を確認し、タイムスケジュールを早めに進められると良かったと反省をしております。最後に、宮城大会にご協力いただいた研修部の皆様に心から感

謝を申し上げます。ありがとうございました。

緻密な「スタッフマニュアル」に支えられて

総務部担当 石川 健

他県に住んでいる会員が「～東日本大震災を越えて私たちがめざすもの～」というサブタイトルの入った宮城大会の案内を目にしてどう思われたのでしょうか。

今後、首都直下型地震や南海トラフ巨大地震など避けては通れないような不安な事象がたくさんある中で、東日本大震災当事者の声から新しい対応策を得ようと、この宮城大会に参加された方も少なくはなかったと思います。私は、「総務部」を担当しましたが、企画の大半を事務局にお任せし「総務」とは名ばかりのままで当日を迎えました。しかし、全く不安はありませんでした。それは、山下克郎実行委員長、中里和裕事務局長を中心にして高橋豊・西川洋平事務局の方々の作成された「実行委員会スタッフマニュアル」があったからでした。

このマニュアルには、8年前に全国大会を前にして大震災のために断念せざるを得なくなった川島克名誉実行委員長はもちろんのこと、当時の実行委員の方々の「夢や思い」をもとにして作成した緻密なプログラムであると私は捉え、3日間傍らに置いて過ごすことにしたからです。そして、この大会期間中、時々マニュアルに目を通してしながら対応することができました。

大会終了時には「今後生じた災害に対して『信頼と心の響きあい』を大切にして子供たちの心を支えてゆかねばならない」というミッションを抱いて会場を後にしていく参加者の姿がありました。

< ONE TEAM 大河原ブロック > 宮城大会庶務部を担当して

大河原ブロック 鈴木 順子

昨年8月によりやく開催できた日本学校教育相談学会の全国大会。私たち宮城県会員にとっては震災で延期された悲願の宮城大会でした。

開催が決まってから早い段階で大河原ブロックは庶務（受付・昼食・接待・懇親会）担当が決まりました。ブロックでは2年以上前から検討と準備を進めてきました。早めに分担を決め、幾度も準備委員会を開きました。会場（福祉大学・懇親会会場）の下見についてもブロックのみんなと独自に実施し、全員で仕事の流れや内容についてイメージしながら「抜けていることはないか」「足りないものはないか」などと事務局と何度も連絡を取り合って大会当日を迎えました。

参加申込み人数が増えているとの連絡を受ける度に、嬉しい反面、庶務としてはこれ以上懇親会参加希望者が増えたら、「狭い会場に入ることができるだろうか」「受付時間が集中し混乱したらどうしよう」等々不安だらけでした。いろいろ小さなトラブルがなかったと言ったらウソになりますが、流石に皆さん教育相談学会の会員の皆さんです。

たくさんの参会者の皆様においでいただきましたが、トラブルにも臨機応変に対応していただき、盛会の内に会を終えることができました。

全国大会を終えてから思ったのは、支部会員の皆様のご尽力ご協力と、大河原ブロックの会員のチームワークのすばらしさです。宮城支部全員「ONE TEAM」で乗り切った宮城



大会の成功に満足感でいっぱいです。

宮城大会会場部を担当して

会場部担当 吉川 邦彦

会場部長としての主課題は、元予備校であった会場の、①空調②避難経路③情報処理機器（パソコンやプロジェクターやスクリーン）④その他必要物をどうするかということだった。基本的には駅前福祉大に何度か赴いたり PDF 化してあるデータ等をもらいうけたりして、係同士の話し合いにより吉川の前案を元に計画・準備した。①は、各部屋の空調は 1 階管理室でしか操作できないということで、神田先生と会場係との連携により、当日何とかご要望にお応えできた。山下理事長から指示のあった避難経路②は、渡辺先生にお願いし避難データを利用して掲示物にしたり、資料として配付したりして万全を期した。③④は、机が教壇備え付けだったため、近焦点プロジェクターや壁貼式スクリーンを探すのに苦労した。各先生の勤務校、小山内先生のいる高崎中、救護係でもある高橋先生の勤める仙台二高、また西川先生の宮教大附属中にも依頼し、ドラムや延長コード等と共に借りし、何とか役割を果たすことができた。

高崎中での事前打合せ、福祉大でのデータ受理、附属中での打合せ、会場下見、仕事依頼の電話掛け、支部打合せ後の係打合せ、前日最終打合せ後の机・椅子配置、最終日の撤去と、会場部の仕事は多かった。私自身支部打合せに出席できず、神田先生・渡辺先生・高橋先生に迷惑をおかけしたが、今は研修参加者数やその感想を見てほっと胸をなでおろしている。

「広報部を担当して」

広報部担当 千葉 久美子

第 31 回日本学校教育相談学会宮城大会を終え、改めて宮城県支部の底力と成功への熱い思いを実感しています。私の所属する石巻ブロックは、広報部の担当となり、主に案内文書の発送といった広報活動と、会員の T シャツ作成、会場の案内板・表示板の作成とセッティング、記録写真撮影でした。案内文書は、事務局の中里先生が作成してくださり、メール配信は小山内先生が担当してくださいました。メール配信できない私立学校や大学などは、手作業で郵送しました。一人でも多くの方に参加していただきたいという強い思いで、作業を行いました。案内板・掲示板は、それぞれの得意分野で作成していただきました。

一番頭を悩ませたのは、宮城支部会員のシンボルとなる T シャツのデザインです。色はグリーンとの指示でしたが、グリーンも色々でしたので、美術教諭（中里先生）の進言を受けて色を決め、テーマを背中に、胸には「令和元年」、肩には「響」の文字を入れ、宮城県支部の思いを精一杯詰め込んだ T シャツになりました。参加者からも大好評で、予備のものも完売となりました。



石巻支部は、気仙沼も含めた広範囲のブロックで、一堂に会することは、なかなか困難でしたが、この大会を機に 3 日間顔を合わせ、楽しく仕事できたことが、最高の収穫となりました。

宮城大会に参加して感じた自分の中の変化

日本学校教育相談学会宮城県支部 木戸 有香子

3 日間にわたって行われた宮城大会に参加して、私の中で明らかに意識が変化したことが 2 点あった。1 点目は、自分の仕事について、もっと学びたい、もっと工夫したい、とワクワクする気持ちになったことである。養護教諭として働き始めて今年で 12 年目となるが、講演会、ワークショップ、シン

ポジウムに参加して、最近の自分がただなんとなく仕事をこなしていたことに気が付いた。講師の先生からの新しい知識、全国の仲間の向上心溢れる取り組みは、私にとってとても刺激的で、今後新しい気持ちで仕事に向き合う勇気を与えていただいた。

2点目は、「宮城県支部会員」ということがとても誇らしく感じたことだ。事務局の先生方をはじめとする、企画・運営委員の先生方のリーダーシップに引っ張られ、3日間、スタッフとしてとても楽しくお仕事をさせていただいた。また、県外の会員の方々から温かい言葉を掛けられる度に、とても充実した気持ちになった。懇親会では、宮城県支部立ち上げ時のエピソードを聞くこともでき、自分がこの支部の仲間の一人であるということがとても嬉しく、緑色のスタッフポロシャツがなんだかとても格好良く感じた。

日本学校教育相談学会第31回総会・研究大会（宮城大会）

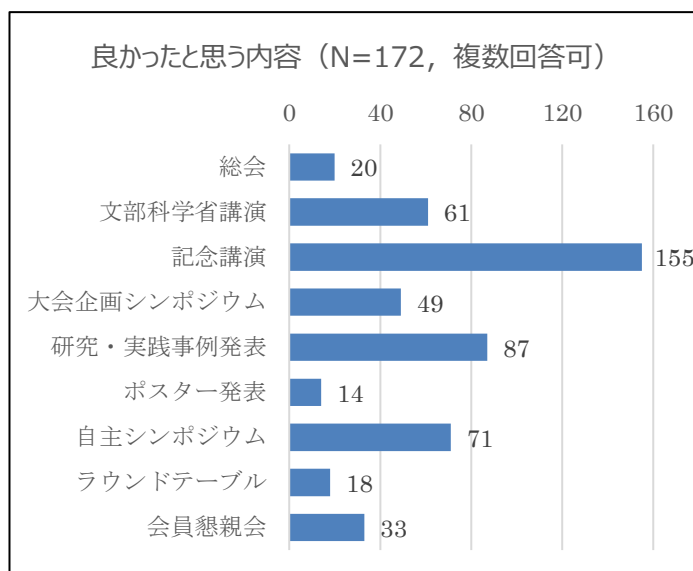
アンケート集計結果まとめ（アンケート用紙の回収部数：172部）

（文部科学省講演について）

・直接文部科学省の担当から話を聞いたのは良かった。中学生レベルの不登校の増加の原因について、未だ明確に捉えていない現状と現場のレベルの対応から見えているもののギャップがあること。そのために何をするのか、自分たちも思考しながら進めていく必要があることがわかり実践につなげたい。

（記念講演）

・朝食や読書の大切さについて、科学的根拠をもとに詳しく説明いただいて、とてもわかりやすく大変勉強になった。



（大会企画シンポジウム）

・被災時に生命を守る取組が注目されがちだが、被災後の生活を守るために学校ができることにいて考えさせられた。貴重な話をありがとうございました。

（研究・実践事例発表）

・自分と異なる校種で頑張っておられる事例を聞いて、視野を広めることができ、より専門的なお話にも触れることができました。

（自主シンポジウム）

・様々な学校でのいろいろな取組等を学べて、やはり同じ意識をもって改革していく先生方を増やす必要性を改めて考えさせられました。

（会員懇親会）

・アトラクションや地酒は、東北に来た感がして大変良かったです。

（大会全体について）

・大震災のため予定していた宮城大会が中止となつてからの8年間に思いをはせ、皆様方の教育相談にかける強い思いを感じた3日間でした。たくさんの学びとこれからの課題とを受け取って帰り

ます。ありがとうございました。

・よく準備されていきました。宮城県支部の皆様の努力が実を結んだ大会でした。人間としてのあるべき姿、心遣い、対話、そして絆を学べた大会でした。8年間の思いが伝わる大会でした。これからの学校教育相談を考え、前進させるヒントを得た気がします。

各地区ブロックより

◇◇◇大河原ブロック◇◇◇

大河原ブロック担当理事 鈴木 順子

<第1回> ※参加者 13名

- ・期日：令和元年6月1日（土） 13：30～
- ・場所：大河原町金ヶ瀬公民館
- ・内容：①ブロック総会・役員確認 ②全国大会準備、役割分担 ③事例検討会

<第2回> ※参加者 30名

- ・期日：令和2年2月1日（土） 13：30～
- ・場所：大河原町金ヶ瀬公民館
- ・内容：「HSCについて」
- ・講師：定之 俊彰先生（公認心理士・白石市広域カンセラー）

令和元年度は宮城大会を盛大に終えることができ、ブロックとしても会員通しの絆を深める良い機会となり充実した年になりました。

◇◇◇仙台ブロック◇◇◇

仙台ブロック幹事 西川 洋平

8月の全国大会では宮城県支部の先生方と協働して会場係として運営に携わりました。この宮城大会は、大会実行委員長山下克郎先生を中心とした実行委員会の皆様のリーダーシップ、協力する先生方のフォローアップの結晶であると感じています。

ここでは仙台ブロックのことについてだけ、書かせていただきます。私は、ここ数年、仙台ブロックの幹事として、同ブロック内の先生方を頼りながら研修会等の御案内の作成をさせていただいていました。本来2月に開催する予定だった仙台ブロック研修会準備についても、案内状の作成を途中まで進めていました。そのとき、宛名印刷のために名簿ファイルを開くと、仙台ブロックの先生方の名前がただの宛名ではなく、エピソードや表情などが伴う温度感のある名簿に感じられ、「私たちは一つなんだ」という思いが沸き起こってきました。またお会いしたい、今後も一緒に学びたいとこれまで以上に感じました。今回の宮城大会を経て、そのようにお感じになられた方も多いのではないのでしょうか。そのような中で、今年度、仙台ブロックは残念ながらブロック会議及び研修会を開催することができませんでした。申し訳ございません。計画を練り直し、次年度の活動準備を進めたいと思います。

私情を交えての文章で甚だ相応しくない内容であったことをお詫びいたします。今後も皆様の交流と学びの場を生み出せるよう、微力ながら努めさせていただきます。

◇◇◇大崎ブロック◇◇◇

大崎ブロック幹事 高橋 聡子

大崎ブロックでは、6月1日に「ホテル古川ヒルズ内ときわ」で、第1回ブロック会議・研修会を開きました。内容は、今年度の事業計画の見通しと全国大会宮城県大会に向けた役割分担の確認をしました。研修会では、石川健先生の指導助言のもと、参加した6名の近況報告と現在抱えている事例研修を行いました。参加者の様々な立場からの見解を知り、理解を広めることができた有意義な時間

となりました。また、11月16日には「大崎中央公民館」において、第2回ブロック研修会を開催しました。研修会の講師は、宮城県支部事務局長の中里和裕先生をお迎えして「いじめ・不登校を生まない学級づくり」と題して、ご講演をいただきました。

ご講演のはじめには、参加者一人一人が「図」を見ながら「学級集団」と「個人」のイメージを考え、人によって捉え方が違うことを確認したり、「エゴグラム」に取り組んだ結果の自身の自我状態を理解したりするなど、多岐にわたる内容の研修会となりました。参加者の多くは、SCや不登校支援に携わっていたり、学級担任をしていたりする方々で、「また、中里先生に続きをご指導いただきたい。」と、多くの声が寄せられました。是非、機会を設け、開催できるようにしたいと思います。



◆◆◆石巻ブロック◆◆◆

石巻ブロック幹事 藤坂 雄一

5月12日（日）に、石巻市遊学館を会場に開催された石巻ブロック総会及び研修会には16名が集まりました。

ブロック会議の後に行われた研修会では、「不登校を生まない学級づくりのために～ホワイトボード・ミーティング®のスキルを活用したチームづくりをとおして～」というテーマで、ホワイトボード・ミーティング®認定講師である岩渕恭子さん、本川良さん、阿部正人さんを研修講師としてお招きしました。ホワイトボード・ミーティングとは、ホワイトボードに意見



やアイデアを集め、参加者の力が生かされる効率的かつ効果的な会議の進め方です。気軽な打合せから困難な課題解決まで、合意形成や具体的な行動プランを決めつつ、参加者みんなが元気になる会議スキルです。2003年にちょんせいこさん（株式会社ひとまち代表）が開発し、多様な領域で取り組まれています。教育現場でも、学級集団作りや授業における交流場面などで活用されており、対話が深まるとともに「承認し合う関係性」を育む効果が期待されております。実践的な研修となり、参加された皆さんと共に充実した研修になりました。

また2月23日（日）は、第2回石巻ブロック会議及び研修会を石巻市遊学館で開催いたしました。この日はいろいろな研修会が重なり、またインフルエンザや新型コロナウイルスなども心配され（当時は、まだここまで大変なことになるとは誰も想定しておりませんでした）、そして雪も降る状況ではありましたが、8名の方に参加していただきました。



講師の瀧川雅啓先生は、高校生のカウンセリング状況「生徒・保護者の相談事例の一考察」～カウンセリング手法等について～というテーマでご自身の実践を理論と関連させながら紹介していただき、スクールカウンセラーが、教職員とどのように連携しながら教育相談を進めていくのがよいのかを考える研修となりました。また、参加者が抱えている悩みをみんなで考えるあたたかさ、石巻ブロックの強みです。学ぶことでつながっていくことを、これからも大切にしたいと感じている石巻ブロックです。

令和元年度 支部研修会報告



●令和元年度日本学校教育相談学会宮城県支部第43回研修会報告

「演題 学校教育に生かせるアンガーマネジメントとペップトーク」

宮城県仙台第二高等学校 養護教諭 高橋晃子

令和元年7月27日、戦災復興記念館において、第一印象研究所代表の杉浦永子先生をお招きし、「学校教育に生かせるアンガーマネジメントとペップトーク」と題して研修会が行われました。65人収容の会場がほぼ満員状態の会場は、一瞬にして旅客機となり、杉浦先生のアナウンスで離陸したのでした。杉浦先生は元客室乗務員です。

怒る必要のあることは上手に怒れ、怒る必要のないことは怒らないようになること、これをトレーニングすればするほど上達すると言います。私たちを怒らせるものの正体とはなんなのでしょうか。怒りの性質を知り、アンガーマネジメントの3つの暗号を学びました。①衝動のコントロール6秒②思考のコントロール・三重〇丸③行動のコントロール・分かれ道、この3つの暗号を復唱し覚えました。

言葉の力で「やる気」と「笑顔」を引き出すペップトークについては初めて学びました。ペップトークとは激励のショートスピーチです。その背景にはアメリカのスポーツ選手が最高のプレイのために体を鍛え、磨くように指導者は言葉の力を磨いたことがあります。ポジティブで相手の状況を受け止め、ゴールに向かった短くてわかりやすい、人をその気にさせる言葉掛け、勇気づけトークのことです。「できる、できる、かならずできる」「最高、最幸、さあ行こう！」「私はこうありたい、こうなりたいという宣言の言葉」ペップトークの4ステップには①需要・事実の受け入れ②承認・とらえ方変換③行動・してほしい変換④激励・背中の一押しがあります。さっそく、夏休み中は家族に対してアンガーマネジメントとペップトークを実践したのでした。夏休み明けに、学んだことを同僚に話したことで、より理解が深まりました。

●第44回支部研修会に参加して

塩竈市立第三小学校 佐藤志帆

私達教師は、学校生活に困難さを抱えた児童・生徒や保護者に対して、その困難さを乗り越えるためのエネルギーになり得る働き掛けができていますでしょうか？

神奈川県立保健福祉大学生田倫子准教授から「難しい事例もブリーフセラピーで切り抜ける～担任サポートチームの具体的メソッド～」と題して講義をしていただきました。担任サポートチームとは、困っている家庭に団体戦を仕掛けることで、担任と担任をサポートできる学年主任や生徒指導主任などが一緒になって保護者に対応していく方法を、不登校対応を例として教えていただきました。子どもが困難さを抱えたとき、保護者は担任や学校に対してネガティブな感情を持ってしまう傾向があり、そのことが困難さを深めてしまうことにつながります。それを防ぐために、担任に対してポジティブな感情を持ってもらえるような情報を、サポーターが保護者にいかに伝えられるかが重要であることを学びました。そして、保護者がポジティブな見方ができるようになると、児童・生徒も困難さを乗り越えるための心のエネルギーが持てるようになるという流れができることを知りました。これまで、良かれと思ってやってきたことを謙虚に見直し、実際の現場でどのようにこのメソッドを活用していくかを考えて実践していくことが必要だと感じました。





新会員紹介



「自分の目指す道」

富谷小学校 曾根 奈緒

約8年間の育児休暇を終えて、戻った教育現場はそれまでの私の常識を遥かに上回るほどの多種多様な課題を抱えていた。学級担任として、勢いや熱意だけではどうにもならない歯がゆさを感じていた時、学校教育相談学会宮城支部の研修会に声を掛けていただき、参加させていただいた。そこでは、一人の児童に対して学校教育現場のみならず、家庭も巻き込んだ総括的なサポートをより具体的に、そして的確にアドバイスいただいた。

自分が教師を続けていく上で、本学会の諸先生方からの貴重なお話を伺うことは初めて知り得る知識も多く、大変有意義である。また、教師としての自分自身を振り返る重要な場ともなっている。

これからも現代の児童生徒を取り巻く様々な課題に対して、私自身その時々々の最良な手立てを見出し、実践できるようにこれから先更に研鑽を積み、知識を蓄えて、現場で奮起していけるよう努力し続けたいと思う。

「経験」と「理論」の融合を目指しています

石巻市立湊中学校 教諭 高橋 錬

数年前、生徒指導主事を担当し、生徒指導の在り方について大いに悩むことがありました。その折、中里先生の講演を拝聴する機会がありました。講演をきっかけに、学校教育相談に興味を持ち、何冊か学校教育相談に関連する本を読みました。すると、読む本の内容全てが当時の私の悩みに直接関係するもので、少し大げさかもしれませんが、私は心を打たれました。それ以来、現在に至るまで学校教育相談について学びを深めています。

日本の学校現場では、教師の「経験」がとても大切にされてきました。しかし、現代の学校を取り巻く教育課題の中には、教師の「経験」の範疇では対応できないものがあります。したがって、これからの学校現場では「経験」に加え、「理論」が必要になると強く感じています。学会で学んだ「理論」と、現場で培われてきた「経験」を融合していけたらと考えています。諸先輩方から多くのことを学ばせてください。よろしくお願いします。

「会員となって」

宮城県支部 渥美 愛乃

私は養護教諭として中学校で勤務をしています。保健室には、怪我や体調不良以外にも、生徒自身が悩み、どうしようもできない想いを抱え来室することも多くあります。日々多様な生徒の悩みに接していると対応に迷うことがあり、私自身の力をつけるためにはどうしたら良いのかと一人悩んでいました。この度会員となり、様々な研修に参加させていただき、諸先生方の実践や事例を学ぶことを通し、今後の生徒への接し方の方向性が見えてきたように思います。生徒の悩みに寄り添い、時には関係職員と連携し生徒自身が悩みを乗り越える支えとなることも重要だと気付きました。生徒の悩みも個性も多様になってきている現代において、日々研修を重ね、生徒の声に耳を傾け心から向き合える養護教諭でありたいと思っています。





1 日本学校教育相談学会第31回総会・研究大会(宮城大会)会議関係

- 令和元年5月18日(土) 第5回企画運営委員会
(各部の準備状況確認、抄録原稿確認、今後の準備確認)
- 令和元年7月13日(土) 第6回企画運営委員会(第2回実行委員会の内容確認、抄録確認)
- 令和元年7月27日(土) 第2回実行委員会
(準備状況確認、当日の日程・動きの確認、今後の準備日程)
- 令和元年8月 8日(木) 宮城大会最終打ち合わせ(最終打ち合わせ、配布物準備、会場準備)
- 令和元年8月 9日(金) 宮城大会(第1日目)ワークショップ
- 令和元年8月10日(土) 宮城大会(第2日目)総会・研究大会(1日目)、会員懇親会
- 令和元年8月11日(日) 宮城大会(第3日目)研究大会(2日目)、被災地視察(石巻)
第3回実行委員会、慰労会
- 令和元年11月9日(土) 第7回企画運営委員会
{大会反省(次回大会への引継事項確認)、会計決算報告}

2 日本学校教育相談学会第31回総会・研究大会(宮城大会)参加者数

① 大会参加者数 304名(325名)

会 員	2 5 0 (2 6 2)
非会員	4 7 (5 6)
学生会員	2 (2)
学生非会員	5 (5)

※()内はワークショップのみの参加者を含めた人数

② ワークショップ受講者数 176名

③ 懇親会 146名

④ オプショナルツアー 36名



第 31 回総会・研究大会(宮城大会)懇親会の様子

3 日本学校教育相談学会宮城県支部第17回総会・研究発表会報告

- 期 日 令和元年7月27日(土)
- 会 場 仙台市戦災復興記念館 4階 研修室
- 総会次第

- 開会宣言
- 開会のあいさつ(支部副理事長 石川 健 先生)
- 議長選出
- 報告並びに協議

(1) 報 告

- ①平成30年度事業報告について(承認)
- ②平成30年度会計決算について(承認)

(2) 協 議

- ①令和元年度事業計画案について(承認)
- ②令和元年度会計予算案について(承認)
- ③役員改選について(承認)
- ④その他



5. 閉会のあいさつ(支部副理事長 千葉 久美子 先生)

6. 閉会宣言

7. 事務連絡

※今年度の研究発表会は、日本学校教育相談学会第31回総会・研究大会(宮城大会)での発表に代えられました。

(発表者)

・『『共生型子ども食堂』について ～立ち上げから今日まで～』

大河原ブロック 菅野 京子先生(NHK学園高等学校 SC)

・「生命(いのち)の授業『生きる』6年生での取り組み-自死予防・中一ギャップを

乗り越えるために-

大崎ブロック 手島 せい子先生(宮城県公立学校 SC)

・「カウンセリングの手法を活用したアクティブラーニングの試み～

高等学校における国語の授業の実践を通して～」

石巻ブロック 大林 幸一郎先生(宮城県塩釜高等学校再任用教諭)

4 日本学校教育相談学会宮城県支部第43回・44回研修会

1. 第43回研修会

○期 日 令和元年7月27日(土)

○会 場 仙台市戦災復興記念館

○内 容 「学校教育に生かせるアンガーマネジメント」

○講 師 杉浦 永子 氏 (第一印象研究所代表)

○参加者:52名

2. 第44回研修会

○期 日 令和元年11月30日(土)

○会 場 多賀城市中央公民館

○内 容 「難しい事例もブリーフセラピーで切り抜ける～

一担任サポートチームの具体的メソッドから～」

○講 師 生田 倫子先生(神奈川県立保健福祉大学准教授)

○参加者:33名



5 第31回日本学校教育相談学会総会・研究大会(宮城大会)の参加費の返金について

参加者各位の大会参加費(7,000円)の返金につきましては、日本学校教育相談学会令和2年分の会費を宮城県支部事務局で一括納入することで代替措置させていただきました。つきましては、大会に参加された皆様には、令和2年度分の会費の「納入証明書」を同封いたしましたので、お受け取り願います。

<編集後記>

宮城県で開催された日本学校教育相談学会研究大会では、多くの会員が一丸となって活動し、かけがえのない経験をさせていただきました。また、ご多用のところ原稿をお寄せいただいた方々に、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行で、心身の健康に及ぼす影響が懸念され、一人一人の本質が問われていると感じます。1日も早い終息を願ってやみません。会員皆様におかれましては十分ご自愛いただき、これからも共に、子供達と真摯に向き合っていきたいと思います。

石巻ブロック 佐藤靖子